掲載許可番号：d20240516-05

紙芝居の魅力 大人にも

大人が主役のお話会「おとなのためのおはなし会」が松山市桑原３丁目の松山東雲女子大で毎月、開催されることになった。初回の14日は地域住民約10人と心理子ども学科の学生25人ほどが参加し、紙芝居の世界に浸った。

松山東雲女子大が「おはなし会」

毎月開催 学生には「学びの場」

人生経験を重ねた大人にこそ紙芝居や絵本の面白さに触れ、奥深さを感じてほしいと同学科子ども専攻の影浦紀子准教授が企画。認定絵本士の資格取得を目指す学生に学びの場を提供する目的もある。親交がある元幼稚園の司書で、現在は高齢者施設で紙芝居を上演している片山真智子さん(71)＝同市南斎院町＝に依頼し、毎月１回の開催が決まった。

14日は、片山さんが高齢者向けの紙芝居「昭和の窓」と「父のかお　母のかお」を披露。参加者はたちまち、お話の世界に引き込まれていた。合間に口の周りや舌の筋肉を動かす運動でコミュニケーションを取るなど、終始和やかな雰囲気だった。

書店で絵本の読み聞かせボランティアをしている同学科４年稲田美優さん(21)は「お口の体操を入れることで一体感が生まれて、お話に入り込みやすくなる。取り入れたい」と笑顔を見せた。近隣に住む越智静子さん(88)は「外に出るいい機会になる。また参加する」と話した。

次回は６月11日午前11時から開催。以降は７月２日、８月20日、９月17日、10月15日、11月12日、12月10日、来年１月７日、２月18日、３月18日を予定している。予約不要、参加無料。（中鋪晴子）

片山さん（右）が紙芝居を披露した「おとなのためのおはなし会」